MPGNの臨床像（752例のアンケート調査よりみて）

大井洋之，関　正人，波多野道信
日本大学医学部　第2内科

序言：膜性増殖性腎炎（MPGN）は組織学的特徴とともに臨床的には大きく2つの特徴があると考えられている。1つは難治性で予後の悪い腎炎であることであり，もう1つは臨床検査で血清補体価の低下を認めることである。しかし，近年学校健診等の普及とともに臨床的にも組織学的にも改善を認める症例も経験されるようになり，治療管理面で再考を必要とする時期にきていると思われる。今回我々は，いかに早期に発見し，どのような病態を呈しているものが治療に反応するか，また臨床検査において補体がどの程度診断治療に役立つかをみる目的で，内科，小児科の施設にアンケート調査を行なった。

方法・対象：内科39施設，小児科24施設より752例（男333，女417）のMPGN症例の調査を行なった。

成績：subtype別にみると type 1：508 type 2：37 type 3：79であった。発見時の病型はWHOの臨床分類により分類すると慢性腎炎症候群41.6％，ネフローゼ症候群31.4％，急性腎炎症候群17.5％，反復性又は持続性血尿7.5％，急速進行性腎炎症候群2％であった。また chance proteinuria and/or hematuria で発見されたものは約60％であり表①に各臨床症候群の内訳を示す。
治療に対する反応では表②に示すように臨床的改善は49％に認められ，再生検結果よりみた組織学的改善も19％に認めた。臨床的改善を認めたものの約7割は15才以下の小児例であった。増悪例では15才以上の症例が多かった。MPGNの特徴とされている補体価に関しては表③に補体の経過を4つのパターンに分けて記載してもらった結果を示す。全体の90％に経過中低補体が認められた。治療との関連では発見当初一過性低補体でその後正常補体価となったものに臨床的改善例が多かった。発症年齢と補体を調べてみると，15才以下では CH50；19.0±8.9，C3；33.6±28.5，C4；21.0±13.8 であり15才以上では CH 50；27.7±12.3，C3；55.6±32.3，C4；27.9±16.4であった。

考察及び結論：従来MPGNは予後不良と考えられてきたが今回のアンケート調査により，chance proteinuria and/or hematuria で発見されるものが6割をしめ，治療に対しての反応も特に小児例では良好のものが多いことがわかった。発見から治療開始までの期間の短いものほど改善例が多いとの報告もありり，1今回のアンケート結果も含め早期発見，早期治療の有用性が示唆された。

文献：1. West, C. D. et al.：
The effect of prednisone in a high-dose, alternate-day regimen on the natural history of idiopathic membranoproliferative glomerulonephritis.
Medicine 64：401，1985.

表 1

	急性腎炎症候群	急速進行性腎炎症候群	反復性又は持続性血尿	慢性腎炎症候群	ネフローゼ症候群
Chance proteinuria症例					
428例	38	1	51	268	70
	(8.9%)	(0.2%)	(11.9%)	(62.6%)	(16.4%)
Chance proteinuriaでない症例					
292例	87	14	4	33	154
	(29.8%)	(4.8%)	(1.4%)	(11.3%)	(52.7%)

表 2

治療に対する反応

臨床的 n=723

	number	percent
改善	355	49.1%
増悪	134	18.5%
不変	234	32.4%

組織学的 n=704

	number	percent
改善	131	18.6%
増悪	65	9.2%
不変	106	15.0%
未施行	402	57.2%

表 3

MPGNの補体の経過

n=711

1．持続性低補体	245例 (34.5%)
2．発見当初一過性低補体その後正常補体を持続	212例 (29.8%)
3．低補体が時に出現する	173例 (24.3%)
4．正常又は高補体を持続	81例 (11.4%)

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

考察及び結論：従来 MPGN は予後不良と考えられてきたが今回のアンケート調査により,chance proteinuria and/or hematuria で発見されるものが 6 割をしめ,治療に対しての反応も特に小児例では良好のものが多いことがわかった。発見から治療開始までの期間の短いものほど改善例が多いとの報告もありり,1 今回のアンケート結果も含め早期発見,早期治療の有用性が示唆された。